



行こう 募集期日は全て2020年です

OM短期宣教・ロシア特集



④ アブハジア地域にいる、危険下にいる子供達のためのキャンプ

⑨ ロシア 曜日 7月20日(月)～8月8日(土)

① アブハジアは自治共和国であり、90年代に戦争を体験した多くの未伝道民族が住む地域です。近い将来教会が始まることを目指し、危険下の子供達や若者にキャンプを通して伝道するため、あなたが必要とされています。自分の枠から抜け出して、神様が彼らに備えられていることの一端を担いましょう！戦争の影響を受けた地域に住んでいる、危険下の子供達や若者のための、3～4日間のキャンプが3つ催されます。また、地元の信者と共に、あなたの賜物、才能、奉仕を通して彼らを力づけ、訓練します。

④ 未伝道のトウヴァでサマーキャンプ

⑨ ロシア 曜日 7月19日(日)～8月3日(月)

① 子供達、10代の若者たち、またその親たちが福音を聞くことができるようなディキヤンプを計画しています。子供ミニストリーを開発させるために、地元の教会が私たちの助けを必要としています。自分の枠から出て、もっとも未伝道な人たちの間で神がなさる素晴らしい御業を目指しましょう。アルタイ共和国の2つの村でディキヤンプをする予定です。それぞのプログラムは5時間で、活動的なゲーム、聖書のお話、クラフト、歌、キャンプファイヤーを含みます。トウヴァの未伝道地域に住む子供達のほとんどは、一人で夏を過ごします。ディキヤンプが彼らにとって、夏のもうとも特別で素晴らしいイベントとなることでしょう。

④ ロゴス・ホープ号

世界中 曜日 1年間もしくは2年間

⑨ ロゴス・ホープ号には常に60カ国から400人以上の人々が乗船し、船内にはギネスブックにも載った「世界最大の移動本屋」もあります。参加者はボランティアとして乗船しながら様々な国を航海し、寄港先と船内でミニストリーを行います。ロゴス・ホープ号乗船中は、毎日決められた部署での仕事を行い、さらに様々な形式の宣教と弟子訓練に参加していきます。

④ 事務局スタッフ募集中



日本 曜日 1年間～

① OM日本では宣教師の派遣と受け入れに関する人事と会計、記事の翻訳（英語）などの働きに携わるスタッフを求めています。世界のOMに属する全員は支援者からのサポートを得て宣教師としての立場で奉仕しています。世界宣教の前線を支える事務局での働きに、ビジョンと重荷が与えられていませんか？関心のある方は事務局までぜひ一報を。

捧げよう

OMの働きを覚えてご支援下さい。

④ OM日本事務局支援献金

OM日本事務局の運営と宣教師の派遣業務は、献金によって行われています。事務局のスタッフは全員、ボランティアであり、家族や友人、教会からの経済的なサポートによって活動を続けています。みなさんの献金は、事務局の運営費とサポート額が十分でないスタッフの支援金として当てられます。

連絡先＆献金送金先

特定のミニストリー、プロジェクト、宣教地、宣教師のための支援金を送って下さる方は、振込用紙の通信欄に送金内容をご明記の上、OM日本の口座にご送金くださいますよう、お願いいたします。

www.omjapan.org/give

郵便振替口座 02100-0-24998

加入者名「OM日本事務局」



アドビのデザインソフトウェア (Photoshop, Illustrator, InDesignなど) を自分で所持し、また使いこなすことができる
こと



参加者国籍＆言語：日本人である必要はありませんが、日本語を読めることが必須となってきます。The position is not limited to Japanese, but being able to read/write Japanese language is crucial.

あなたの特殊な才能を主のためにつかってみませんか。どうぞOM事務局までご連絡ください！

胸踊るこの時代

ステーブン・スミスドルフ
OM日本代表、妻の契子と3人の子供達、モーゼ(18)、恵真(15)、ヨハン(12)と共に宮城県在住

キリストに従う尊い方たちへ、
私たち今は、とても胸踊る時代に生きています！それは神様が世界の至る所で、これまでに耳にしたことのない形で働いておられるからです。これは特に世界でも福音がまだ伝えられていない人々の間で顕著に見られていることです。何千という人々が日々イエス様を信じるようになり、これまで教会が全く存在しなかった場所に新しい教会が誕生しているのです。

今日、世界中には、「福音が伝えられない民族」（福音派のクリスチヤンの数が人口の2%以下という定義）が6,700民族もあります。そのうちの一つである日本民族のために、伝道に携わっている日本の教会と、宣教師達のパートナーシップを覚え、主の御名を崇めます！しかし、何千という福音の伝えられない小さな町や村に住む人々は、イエスキリストの良い知らせを届けてくれる最初の宣教師を待っています。毎日世界では、70,000人以上の人々がイエス様を知らずに亡くなっています。ということは、今年だけでも約3,000万人の人々が救いのメッセージを聞くことなく人生を終えることになります。*

又、福音の伝えられない人々への宣教として、短期、又は長期での様々な機会についても是非お話ししたいです。今回のニュースレターでは、ロシアやコーカサス地域で行われるアウトリーチについても触れています。また来年7月、アフリカのザンビア国中心部にあるアニミズム信仰の村で、10日間の短期宣教を経験してみるのはいかがでしょうか？もしくはセルビア国で開かれている難民支援プログラムにボランティアとして参加してみては？

このことは、私たちのほとんどが、すでに何百回も福音を聞いたことがあるという中で起こっています。私達が行かなければ、彼らはどうやってイエスにあるこの素晴らしい救いのメッセージを耳にできるのでしょうか？真理を求める彼らの叫びに誰が応えてくれるのでしょうか？

宣教団体としてOMは「福音が最も伝えられない場所」で働くことを最優先としています。私たちのミッションステートメントが「私たちの願いは、最も福音が伝えられない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです」とあるのもそのためです。OMでは多くのチームがすでに世界中の様々な未伝地域で活動しています。

皆さんからのご連絡をお待ちしつつ。
スミスドルフ スティーブン
OM日本 代表

*統計参考：
<https://www.aboutmissions.org/statistics.html>

OMのミッションステートメント：
私たちの願いは、最も福音が伝えられない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです

OM (Operation Mobilisation) は、世界約110カ国で3200名が活動している世界宣教団体です。OMは世界における世界宣教のために奉仕者の育成を行っています。特に最も福音が伝えられない地域に重点を置き、イエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、それらが育成されていくことを目標にしています。

OM日本・OM Japan
www.omjapan.org fb.me/omjapan info.jp@om.org
+81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX) 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394
郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM日本事務局」
OM日本ニュース 第83号 2020年 冬 発行人：スティーブン・スミスドルフ
編集＆デザイン：近藤健二

6

global ミニ

OM日本ニュース 第83号 2020年 冬



大プロジェクトの一員として

» ロゴス・ホープ号報告



P1-3

» ミャンマーツアー報告



P4



P5

内面P2に続く



OM 船ロゴスホープ号



P 1より続き

②福音を全世界へ

ロゴスホープ号で世界の現実を知りました。世界には「イエス・キリスト」の名前すら聞いたことのない人々が30億人いる。主の願い、主の痛みを知りました。主の思いを私の思いにさせてください、と願いました。あまりにも多くの人達がイエス・キリストを知らない。「30億」と言う莫大な数字を考えると、私一人で何ができるだろうか。しかし、問うべきことは「私は誰か?」ではなく、「私といっしょにおられるのは誰か?」でした。主が私たちを選び、全世界へ福音を届けるために召してくださいました。

③訓練船

ロゴスホープ号には65カ国から400名が乗船しています。高校を卒業したばかりの若者から70歳を目前にした人たちも乗船しています。ともに汗を流して働き、祈りと情熱と涙を持って宣教します。ロゴスホープ号は訓練船です。船に乗っている以上、逃げることはできません。ある人はロゴスホープ号のことを、「圧力鍋」「紙やすり」と呼んでいます。この場所で毎日碎かれる訓練を受けるからです。訓練を受けた私たちが福音宣教のため全世界へ遣わされて行きます。

【今後について】

ロゴスホープ号を下船し、主は私達家族をOM日本で働きをするように導かれました。日本各地の教会を訪問し、ロゴスホープ号の証を通して主がどれほど偉大なお方かを証し教会の祝福になりたい、特に若い世代へ世界宣教の素晴らしいことを伝えたいと願っています。また国内国外、教会のない地域で行われている福音宣教に携わりたいと願っています。



全国に伺います

ロゴスホープ号からの涙と笑いの証、そして参加するための詳細を聞こう。みなさんの教会にお招きください！下記までご連絡を。
携帯：080-4485-4942
メール：shinya.funakoshi@om.org



左：ソーラン節 上：セントルシアにて
右：メキシコの教会にて

2



- 1) コロンビア・カルタヘナにて、貧しい地域の教会で出会った素敵な子どもたちと
- 2) カリブ海・セントヴィンセントで出会った素敵な家族。
- 3) コロンビアの老人ホームでの老眼鏡を配布するミニストリー。度数を合わせるために簡単なテストを行っています
- 4) メキシコのピラミッドの前にて
- 5) 2年目のドライドッグ中にモービライゼーションチームとして行ったドイツにて

私もそのうちの1人だと

2017年から二年間ロゴス・ホープに乗船した一重美謝子さんの報告です

皆さま、こんにちは！2017年の9月から2年間ロゴスホープ号に乗船していた、一重美謝子です。はじめに、乗船期間を通して与えられた多くの恵みのうち2つを分かち合わせていただきます。

まず1つ目は、寄港先々でたくさんの出会いが与えられたことです。私は、カリブ海のドミニカ共和国から乗船しました。7つのカリブ海の島を周ったあと、コロンビアから中南米の国々を周りました。私は、乗船していた2年間、ブックフェア（船上書店）の部署で働いていたので、毎日のように地元の方々と関わる機会がありました。たくさんのクリスチャンとの出会い、逆にキリスト教に疑問を抱いて、キリスト教から離れていた人の出会い、家族問題を抱えていた若者たちとの出会い…。様々な環境の中で生きている人々に出会い、その都度、自分の生き方について考えさせられました。

2つ目の恵みは、私が神様のうちにどのような存在であるかを見出せたことです。これは、神様の働き無しにはあり得ないことで、素直ではない私に対して、神様が忍耐強く働いてくださっていたことを本当に感謝しています。乗船後、自己肯定感の低さに気づかされました。

今は、これから的人生で出会う人々に、乗船期間を通して私が得た多くの恵みを分かち合っていきたいと意気込んでいます。そして、神様がどのように私を導いてくださるか、とても楽しみです。

最後に、私のために祈りや様々な面でサポートしてくださった方々に心から感謝を申し上げます。

皆さまの信仰生活が益々祝福され、用いられますように！

一重 美謝子

“ 神様は、全て備わった者だけを呼ばれるのではない。しかし、呼ばれた者を備えられる



ミャンマーツアー報告

2019年8月19日～27日のミャンマーツアーに参加された近藤夫妻の証です



近藤 真史

私がこのツアーで最も嬉しかったことは、仏教国であり自由な宣教が許されていない国で確かにキリストを信じ、信仰を伝えている人たちとの交わりが与えられたことです。ヤンゴン郊外のモン州では、様々な事情で家庭で過ごすことができない子どもたちと共に暮らし、信仰を伝えている孤児院を訪ねました。支援だけに頼ることなく、彼らは作物を栽培し、家畜を飼っていました。ヤンゴンの都会では、クリスチャンの先生たちが教える幼稚園を訪ねました。子どもたちの多くは仏教徒の家庭から来ているとのこと！！私たちはかなり直接的な伝道をすることができましたが、それはつまり、普段からキリストの福音が教えられているということでしょう。



言葉は通じないけれど、一緒に日本の歌を歌ったり、ゲームをしたり、福音を伝えたり…と子供達と共に楽しい時間を共有できたのが嬉しかったです。

私が一番感動したのは、寄宿学校へ招かれました時でした。ここ的孩子たちにはすでに福音が伝えられており、子供プログラムの後、God is so goodという賛美を捧げました。その時子供達が賛美を歌っている姿を見て、このミャンマーにもイエスが来て下さって一人一人を愛してくださっているんだなと感じました。仏教徒の国でイエス様を信じることの難しさや生活の大変さがあるなか、イエス様

は良い方であると賛美を捧げている姿に感動し、私は涙が止まりませんでした。それと同時に自分自身の信仰も考えさせられました。

またこの旅を通して自分にとって大変だったこともあります。トイレとお水のことについて、とても不便さを覚えました。日本がどれだけ綺麗で恵まれているか強く思われました。帰国後、与えられている環境を改めて感謝するようになりました。良い経験でした。

それから、この旅で与えられたこともあります。出会ったクリスチャンの一人一人のために祈るという思いです。ミャンマーはクリスチャンの歩みをする中で信仰を持ち続ける難しさがあることを知りました。現地の宣教師のため、クリスチャンの人たちの歩みが守られるように祈り続けます。この宣教旅行を導いてくださった主に感謝を捧げつつ。

4